

みんなの スペース

◆あて先・問い合わせ

〒028-1392 (住所不要) 山
田町役場総務課情報係 ☎82
-3111 内線417) へどうぞ。

「津波に ついて」

津波の害から一人でも多く助けてあげたい
と思って、昔からの言
い伝えを書いてみました。
おばあさんと、父
からの話です。

「長い地震と、揺れて
いたのが小さくなって
きてとまりそうになっ
てからずきずきと強
いのが2、3回きて、
びたりとまった津波
に気をつける。いつど
こさ行った時起こるの
か、居た所の近くの山
のでつばなに上がるん
だ。道が良くても沢を
走るな。沢には高く水
が上がるんだからな。
家に居た時地震がした
ら、少し長いなと思っ

たら揺れているうちに
持つて逃げるものを準備
するもんだ。津波で流れ
る時は俺らあとおべえで
なく、店屋も流れてなく
なんだからどれまへも着
替え物2、3代わり持つ
もんだ。汗をかくことも
あんだし雨で濡れること
もあんだからな。腹も減

んだからすぐ食べられる物が
有ったらそれも持つて逃げるん
だ。家から出る時は長靴かズツ
クで、足の下の厚いものを履く
もんだ。流れた家の物、包丁、
鎌、カミソリだのナタだの刃物
が流れて土に埋まったり、何か
が被さつてたりして、歩く時
は足を付く所を気を付けてみな
がら足を付くもんだ。刃物が埋
まっているところに足を付けば、
とんでもない大きなけがをする
もんだ。揺れが止まって25分か
30分内に水が来んだから、何か
思い出しても絶対取りに戻らな
いこと。家から出たら命を大事
にするもんだ。生きていればそ
の時思い出したのは買い求める
ことができるんだ。絶対取りに
戻らないこと。地震が止まった
らすぐに逃げるんだ。草履のよ
うな足の下の薄いものは履かな
いように。うなべえ覚えていな
いで、弟たちや妹や小さな子ど
もたちにも伝えてやれ」と言わ

「異変」

れました。流れている人を助け
る時は、自分はいらないで長い
縄を投げてやって、片方は丘に
居る人が持つていているんだ。捕
まったら縄を引いて丘に引き上
げるんだ。自分も膝くらいい
思つて水に入らないんだ。津波
の水は勢いが強いから、体重の
掛からない足が流されて倒れる
んだからなあと言われた。

昆 ユリ (織笠)

鬼がよろこぶきび団子
積んだ船出だ乾杯だ
時は流れた桃太郎
猿雉寝てろ俺が行く
ピンピンコロリピンコロリ

嫁もまだまだ家もまだ
足柄山は夢見山
ぜねかねいらん金太郎
母の嫁入りしかとみよ
ピンピンコロリピンコロリ

鯛や鰯と浮気して
竜宮城を追い出され
島も忘れた浦太郎
月は東出日は西だ
ピンピンコロリピンコロリ

湯沢 福治 (大沢・89)

やまだ文芸広場

◇短歌

・向日葵は

大きい目をもちギラギラと

真夏の畑に

燃え上りいる

・父は照り

母は涙の露となり

おなじ慧に

そだつ撫子

内館 洋一 (飯岡・73)

・復興の

槌音響く 暑い夏

ヘルメット方々に

感謝あるなり

大川 ヒメ子 (大沢・72)

◇俳句

・ひ孫達

カブト、オニヤンマに

大騒ぎ

佐藤 兼男 (荒川)

・つゆ草の

藍は夜露に

色の濃し

・一夏の

命短し

蟬の鳴く

沼崎 悦子 (船越・74)

町長室から

お盆は多くの知己と再会
する楽しい期間でもある。
そして、帰省客の楽しみの
一つが商工会青年部の主催
する山田の花火大会である。
今回が10回目だという。震
災の年は多くのご意見があ
る中で継続されてきたとい
う経緯がある。あれだけの
花火を打ち上げるためには、
相当な資金が必要である。
幾人もいない青年部員の努
力を思いながら鑑賞すると、
どこの花火よりもより一層
山田の花火が美しく見える。
町中に轟く音と放たれる光
は、山田で生きる青年たち
のエネルギーの発露にも思
える。反面、花火にはもの
悲しさも感じられる。大輪
が歓声とともに静かに消え
てゆく。砂浜には人影もな
くなり、山田の短い夏の終
わりがそこまで来ている。
感傷に浸っていると、どこ
からともなく祭り囃子が聞
こえ始める。すると先ほど
までの寂しさが影をひそめ、
希望が湧いてくるのである。

山田町長 佐藤 信逸